

伊能ブームのきっかけとなった

伊能忠敬研究会5年間の歩み

渡辺 一郎

伊能ウォークの終了を迎えて、伊能忠敬再発見の活動がよくもここまで来たものだとの思いを深くしますが、これまでの活動の跡をたどって御参考に供します。

95.3.27—28 フランスに伊能図があるのを知り（日経記事）渡辺夫妻が調査のため渡仏、パリ郊外のイブ・ペイレ氏を訪問。最高級の伊能中図8枚の完全揃いを確認し、日本展示を打診する。

95.4.6 朝日新聞夕刊「ひと」欄で渡辺の渡仏調査が紹介される。
パリ支局長・清水弟さん（当時）発の第1報であった。

95.5.上旬 朝日新聞を見た伊能陽子さんから渡辺に電話がかかる。
（世田谷伊能家との付き合いのはじまり）

95.10.17—19 佐原市中央公民館でフランスの伊能中図里帰り展を開催。佐原市教育次長・香取禧良さん（当時）の尽力であった。

朝日、日経、NHKの報道があつて、3日間に各地から3300人が佐原へ集まる。古地図専門家を集め検討会を開催。

95.11—96.3 忠敬人気に感心して、伊能忠敬研究会結成を呼

びかける。全国から、歴史家、社会科教師、大学教員、主婦、測量技術者、忠敬ファン、土地家屋調査士など多彩な顔ぶれが入会。会報第1号を3月1日に発行する。

96.5.22 フランスの伊能図を江戸博あたりに持つてきたらと「朝日新聞日曜版」編集長に戻っていた清水弟さんと朝日OBの雪山さん（元ボン支局長）にいわれる。

96.6.23 第1回例会を開く。会員74名中47名参加。富岡八幡宮から間宮林蔵墓まで歩測大会をおこなう。浅井京子さん（富岡美術館学芸課長）歩測名人第1号に入賞。あと清澄庭園で懇親会。

96.8.15 江戸東京博物館に「伊能忠敬展」を提案する。役員の学習院女子部教頭・斉藤仁さん（当時）と同道した。（忠敬は深川黒江町から、日本測量を始めたのだからというのが提案理由）

96.11.10 佐原で第2回例会。鈴木市長挨拶、小島一仁、渡辺一郎両名が講演。世田谷伊能家の史料など展示。

96.11.20 江戸東京博物館の担当から伊能忠敬展内定の連絡をうける。朝日新聞と組みたいとの意向を聞く。

96.12.4 国土地理院長の野々村さん（当時）に相談する。野々村氏も「朝日」に持ち込むことに賛成。話をしてくれることになる。

96.12.20 朝日新聞・清水建宇さん（当時、出版局企画担当。現

在、テレビ朝日ニュース・ステーション担当、佐藤嘉尚氏と研究会に
来訪。日歩協・木谷さん等と伊能ウォークを考えている。朝日新聞1
20周年記念事業として提案したいとお話。もちろん賛成。

96.12.21 NTVで「人生50才の旅たち・伊能忠敬」放映され
る。(千葉県提供の45分番組。忠敬役は渡辺一郎。解説・案内は江守
徹。企画段階から協力した)

97上期 佐原市の伊能忠敬記念館と非公式打ち合わせ、あるいは英
国海軍水路部に伊能小図借用申し入れなど、「伊能忠敬展」の事前交渉
をおこなう。フランスのペイレさんにも了解をとる。展示品のリスト
案も作る。江戸博の「伊能忠敬展」決定をうけて、俳優座の古賀さん
「俺も前から演劇と映画を考えていた」と仲間に入る。

97.9.29 「渡辺一郎著・伊能測量隊まかりとおる」出版。

97.10.13 日歩協・木谷専務の発案で、江戸博「伊能忠敬展」、
伊能ウォーク、俳優座の企画など、グループ内の氣勢を揚げるため、
「伊能測量隊まかりとおる」の出版パーティを日比谷のプレスセンタ
で開く。関係者約150人集まる。伊能研約40名出席。

97.10.26 「気象庁で最終版伊能大図写本43枚発見、国会図
書館に移管」と全国紙各紙一斉に報道。(発見者は研究会員で国会図書
館特別資料課長(当時)の鈴木純子さん。渡辺は伊能忠敬記念館青木
学芸員と調査を委嘱され、事前チェック済み) 会員でもある朝日・堀
田記者の御尽力をいただいた。のちに本図は、国会図書館と江戸東京

博物館で同時公開し「伊能忠敬展」を盛り上げた。

98年初 江戸博の忠敬展、伊能ウォーク、俳優座舞台劇「伊能忠敬
物語」は共同プロジェクトに決定、定期的に連絡会が開かれるように
なる。

98.4.10

①伊能ウォークの計画が朝日新聞紙上で発表される。

②高輪プリンスホテルで3プロジェクトのオープニングパーティが開
催された。伊能忠敬研究会会員約90名出席。九州、関西など遠路を
いとわないう者が多く、関係者は熱意にあきれる。

③同日付けで読売新聞「江東版」は、江戸博「伊能忠敬展」併催の歩
測大会(主催・日歩協、伊能研)を大きく報道。

98.4.16 江戸博の「伊能忠敬展」開幕直前であるが、北海道の
研究会員・高木さんの連絡により、渡辺が急遽東京都立中央図書館を
調査する。日本には無いとされていた伊能小図本州東部を発見、日本
経済新聞がとりあげる。

98.5.15 都立中央図書館の伊能小図について、東京都教育庁が
記者発表。各紙追従、大ニュースとなる。本図もあとで江戸博の「伊
能忠敬展」に展示された。

98.4.21-6.21

①江戸博「伊能忠敬展」開催。過去5年間で2番目の入場者があった。
(入場者数一一一、三九九名を達成)

②期間中に併催事業として、忠敬隠宅から浅草吾妻橋を結ぶ約10キロのウォーキング大会を4回開催（日歩協との共催）。コース上に3箇所の歩測区間を設けた。調査票提出者509名、歩測名人6名、歩測達人18名が誕生。日歩協・木谷専務は歩測達人に入賞。歩測区間の測定は国土地理院にお願いした。

③井上ひさし氏の講演会も開催。江戸博の講堂は満席。多数の方が床に座って聴講した。

④「伊能忠敬展」図録を研究会で作成した。学芸員にとつて死ぬほどつらいという図録を引き受け、会員で分担執筆。制作はアワプランニング。閉幕後市販。目下、伊能忠敬を調べる人にとつて必須の参考書となっている。

⑤国土地理院を中心とする測量グループの御尽力で「ミュージック・ショウ・伊能測量と近代測量」を上演。忠敬役は渡辺。近代測量の解説は野々村院長。伊能測量と近代測量を舞台の上で演じ好評だった。

98.6.16 NHK歴史番組「堂々日本史」で伊能忠敬を放映。渡辺は伊能測量の指導に出演。

98.8—98.12 伊能ウォークのルート選定資料として、国土地理院から「伊能忠敬測量ルート調査（その1）」を受託。研究会員のプロジェクトチームで制作。伊能ウォークのルート原案を記入して日歩協に提供した。

98.9.10—12 伊能ウォーク・ブレウォーク（忠敬青春の道ウォーク）開催。会員で忠敬の父・貞恒の実家の当主・神保誠さん、九十九里から佐原まで名誉隊長として先頭を歩く。

98.10.31—11.3 東松山の国際スリーデー・マーチ会場で、伊能ウォーク本部隊員選考委員会。渡辺は選考委員長を務める。伊能、神保、その他の会員が選考大会に参加。

98.11—98.12

伊能教室用資材の準備。伊能大図複製の制作に協力。

98.12 随伴車運転要員として伊能陽子さんから大庭さんを紹介。また学芸員兼資材輸送担当として新沢会員の参加が決まる。大庭さんは車両持ち込みである。

99.1.25 伊能ウォーク進発。

各地の会員は、地図説明員、ウォーク参加、イベントの設定に、微力ながらよく健闘した。遠隔地の会員には、ただ一人で孤軍奮闘してくれた方が多かった。

渡辺は、主催者代表の一員として、また総隊長として講演、ウォーク参加のため2年間にちようど40回出かけた。伊能陽子さんは研究会の役員でもあるが、伊能家の広報担当のような役割もあつて、20回も出かけていただいた。

会員でウォーク参加回数が多かったのは、土肥さん52回、川上さんは65回、福田さん25回でした。忙しい方たちなので、心から敬意を表します。

本部隊メンバの中山さんは、時々参加する勝手がわからない研究会員をよくサポートしてくれました。ありがとうございました。